東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携

「個性の大地」

第１８号（平成１８年　６月）
東北地方整備局河川部
地域河川課　発行

年度初めの挨拶



平成１８年度の補助事業

東北地方整備局　地域河川調整官　谷田広樹

平成１２年度、地方整備局に地域河川課が発足し、河川等補助事業の業務が仙台で行われるようになって６年の歳月が経過しております。この間、各県の財政悪化、補助金改革等の要因により６年間で東北地方整備局全体では約７３４億円の河川等補助事業費が減額となり、平成１８年度は約６７５億円の事業費となっております。また、ヒアリング等を通じた本省と各県との繋がりが薄れ、本省での中小河川向けの政策提言が減少している状況です。一方で、各県で対応する河川、ダム、海岸、砂防等の各事業は生活により密着するとともに、技術的には解決すべき課題が多い現状にあります。

このような状況において､東北地方整備局の河川等補助事業の平成１８年度は下記方針で進めていく所存です｡各県の皆様と一緒になってより良い社会資本整備を進めていきたいと思います。よろしくお願いします。

１．各県の事業展開に対して、地方整備局は積極的な支援を行う。
（県と直轄の技術交流、意見交換、共同の研修等）

２．各県の悩み、苦労を共有化し、解決に向けて共同で行動を行う。
（補助採択要件の是正、東北地方としての政策提言等）

３．各県へ直轄事業の持ちうる技術力を全て提供する。
（計画立案の留意点、計画時の暗黙知、最新情報等）

平成１８年度補助事業の概要

東北地方整備局の河川局所管補助事業の平成１８年度事業費は、当初予算で総額約 ６７５億円（前年度比0.87２）であり、河川、海岸、砂防、ダム事業の計画的・効率的執行により、地域住民が安全・安心で、ゆとりとやすらぎのある暮らしが営まれるとともに、直轄事業や他事業関連との調整を図りながら東北地方における社会･経済の基礎となる社会資本整備の一層の推進を図ります。

平成１８年度事業費

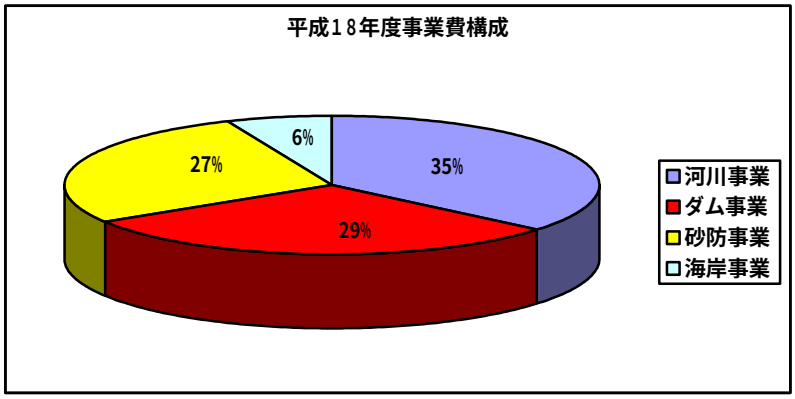
総額　６７５億円

（単位：百万円）

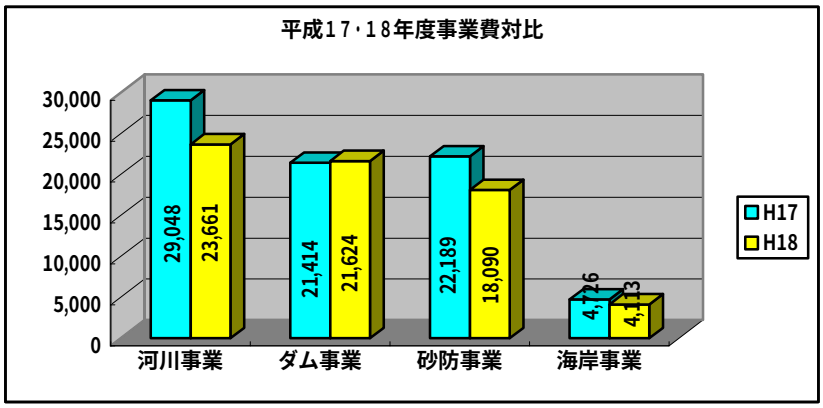
事　業　名	Ｈ１８事業費		Ｈ１７事業費		伸　率
		うち一括配分		うち一括配分	
河川事業	23,661 (1,547)	17,561 (1,547)	29,048 (2,507)	22,948 (2,507)	0.815
ダム事業	21,624 (2,105)	1,257 (0)	21,414 (1,629)	1,754 (0)	1.010
砂防事業	18,090	5,375	22,189	5,963	0.815
海岸事業	4,113	978	4,726	1,277	0.870
合　計	67,488 (3,652)	25,171 (1,547)	77,377 (4,136)	31,942 (2,507)	0.872

※各事業(海岸事業除)には、道路社会資本及び特定治水施設等整備事業を含む

※（）書きは、住宅対策及び都市水環境整備事業



（単位：百万円）



各県の整備方針

安全・安心で快適な社会を目指して



青森県　河川砂防課長　田村　義行

本県が掲げる 暮らしやすさではどこにも負けない「生活創造社会」の実現に向け、「青森県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例」の理念の下、県民が安全で安心して暮らせる県土づくりのため河川砂防及び海岸事業を着実に進めて参ります。

特に、治水施設整備等のハード対策に加え、「浸水想定区域の指定・公表」、「土砂災害警戒区域等指定や警戒情報システム整備」等ソフト対策の充実・強化を図ることとしています。今年度は、警戒水位に達するとメールが自動送信される「事前の洪水避難お知らせメール」サービスを県内全域で開始します。引き続きご指導よろしくお願いします。

“みんなで創る”　みんなの県土



岩手県　河川課総括課長　沖野　健悦

１　洪水・津波被害に強い安全安心な県土づくり

県民が「質の高い生活」を享受できるよう、市町村等との緊密な連携を図りながら、洪水や津波対策のため、ハード整備・ソフト対策両面からの施策を実施していきます。

２　社会経済情勢等に応じた効果的・効率的な社会資本整備の推進

全ての事業について、社会経済情勢等を十分に踏まえ、事業内容を見直すとともに、コスト縮減に努めます。

３　住民意見を反映した河川海岸行政の推進

住民や専門家の意見を積極的に聴きながら、河川海岸計画の策定や多自然川づくりに取り組むとともに、住民連携活動の推進を図ります。

「県民と共に、未来に誇れる強く美しいみやぎの県土づくり」を目指して



宮城県　河川課長　橋 本　潔

「県民と共に、未来に誇れる強く美しいみやぎの県土づくり」を目指して、防災・減災対策を推進するとともに、河川・ダム・海岸施設のストックマネジメントのあり方を検討し今後とも

適正に河川等の管理を実施してまいりますので、引き続きよろしくご指導願います。また、８月に「水が紡ぐ　ふるさとみやぎのこころと暮らし」をテーマに開催される「第１１回水シンポジウム２００６in みやぎ」の成果を、宮城県のみならず東北地方における水問題の解決やいろいろな取り組みに活かしてまいりたいと考えておりますので、皆様のご支援ご協力を切にお願いいたします。

元気なふるさと秋田づくり

秋田県　河川砂防課長　佐々木　卓郎



県民目標である「元気なふるさと秋田づくり」を実現するために、河川改修・海岸保全対策の推進、水と親しめる河川・海岸空間の整備に努め、安全・安心でゆとりのある生活環境づくりを進めてまいります。

また、厳しい財政状況ではありますが、環境への配慮、コスト縮減等を考慮しながら、ボランティア・ＮＰＯ等の様々な主体と共に秋田らしい川づくりを進め、ハード・ソフト面の両立により、災害に強い県土づくりと危機管理体制の一層の強化を推進します。これらの目標を実施するため、関係機関の方々におかれましては、今後とも引き続きご指導よろしくお願いします。

豊かな県土を次世代に引き継ぐために

山形県　河川砂防課長　加藤　令一



１００年後にも誇りに思える元気なふるさと”やまがた”の実現のため、平成１８年３月に、やまがた「県土未来図」を策定しました。この「県土未来図」が目指す、活力があり、美しく、楽しい山形を創っていくために、安全・安心を支える県土づくりと地域力を生み出す生活基盤づくりの視点で、治水、土砂災害対策を推進していきます。

厳しい財政状況の中、各事業においては、「選択と集中」を進めながら、地域と一体となった河川砂防施設の整備を着実に推進します。また、主要な中小河川における市町村のハザードマップ作成に資する情報、水位や土砂災害情報の提供等、ソフト事業もあわせて推進していきます。

維持管理においては、「ふるさとの川アダプト事業」を拡充するなど「住民参加・住民協働」を推進していきます。　今後とも引き続きご指導・ご支援よろしくお願いします。

「ともに考え、ともにつくる美しい県土」



福島県　河川企画グループ参事　阿部　悦雄

「ともに考え、ともにつくる美しい県土」を目指し、地域住民の参加を得ながら地域の環境や独自の歴史・文化を生かした個性豊かな地域づくりを念頭に置き、風水、土砂、雪崩などの自然災害に強い県土基盤の整備を進めるため、河川、海岸、ダム、砂防施設等を整備し、安全で安心できる生活環境づくりを推進して参ります。

また、厳しい財政状況の中で、より一層、早期の効果的な対策が講じられるよう、市街化の著しい地域、被害の頻発地域等への重点投資や、地域の特性に応じた整備計画を策定するとともに、対策の進展が遅れる地域や計画を越える災害等に対応するため、地域住民の迅速な避難誘導を支援するソフト対策にも力を入れて参ります。

今後とも引き続きご指導・ご支援をよろしくお願い致します。

トピックス

東北６県・仙台市からの情報

「試験湛水中の鷹生ダムがサーチャージ水位に達しました」【05/11】

岩手県

昨年 5 月 11 日に試験湛水を開始した鷹生ダムは、去る 5 月 10 日にサーチャージ水位へ到達しました。期せずして貯留開始からちょうど 1 年、365 日を要して 968 万立方メートルの水を貯めることが出来ました。



試験湛水にあたっては、事業効果の早期発現、コスト削減の観点から期間の短縮。生物の生息環境の改変は出来るだけ回避するなど、新しい取り組みをいくつか行ないました。

通常、試験湛水は洪水期である夏には行ないませんが、過去の降雨、洪水を精査し、期間を細分化することで所定の安全性を確保し、約 40 日前倒しして実施しました。

また、春から夏にかけての生物活動の盛んな時期が試験湛水期間に含まれるため、川の水温の変化が下流の生態系へ影響をなるべく与えないよう、貯水池表面の暖かい水を混合して放流できるようにしています。表面の水を取水するポンプ設備と、曝気による攪拌装置により構成されている装置によってダムが無かったときと変わりない水温としています。

サーチャージ水位到達の際は、珍しい光景を見ようと山間の場所で平日であったにもかかわらず、3 日間で 2 千人を越える見学者がありました。このときは小熊を 4 頭も連れたツキノワグマ

が堤体下流に現れたため、人間とクマの安全を考え、急遽、下流面の見学は中止されました。ダムの周りではクマやシカなどの大型の野生生物は日常的に姿を見せます。

ダム周辺には、上流に太平洋まで見渡せ、ツツジが美しいことから登山者に人気の五葉山(1351m)や、貯水池の上流にダム湖を眺めながら入浴できる日帰り入浴施設などがあることから多くの観光客が訪れています。



登録有形文化財に登録された「正法寺川」砂防施設

山形県

平成１７年に天童市にある正法寺川砂防施設２９施設が、国の登録有形文化財に登録されました。　登録された砂防施設は、大正２年の大洪水を受け、最上川水系倉津川に合流する普通河川正法寺川の最上流部に、大正１１年度から昭和２年度までの６ヶ年で整備されたものです。

構造は、布積の重力式空積堰堤、谷積の重力式練積堰堤、鞍掛式鉄線蛇籠という当時の先端工法であり、国土の歴史的景観に寄与していること、造形の規範となっていること、再現することが容易でないということから登録されました。

登録をうけ、平成 17 年 10 月に、地元住民も参加した記念式典及び現地での学習会の活動を行ってきました。今後も、地元と連携し、保存に取り組んでいきたいと思います。



正法寺川北沢第十号石堰堤



平成１８年度の主な行事予定

年月日	県名	事業区分	行　事　名
5月11日	宮城県	ダム	長沼ダム起工式安全祈願祭
5月30日	青森県	河川	青森県水防演習
5月30日	宮城県	河川	宮城県水防協議会
6月1日～6月2日	秋田県	砂防	平成18年度［第24回］土砂災害防止推進の集い（全国大会）
6月8日	青森県	河川	全国治水大会
6月8日	岩手県・秋田県・山形県・福島県	砂防	土砂災害に対する全国統一防災訓練
6月14日	宮城県	河川	宮城県治水協会・砂防協会総会、宮城県治水大会
6月14日	福島県	ダム	こまちダム湛水式
6月19日～6月20日	青森県	海岸	北海道・東北・関東ﾌﾞﾛｯｸ補助海岸事業担当者会議
7月下旬	宮城県	河川	貞山運河フェスティバル
7月21日～7月31日	秋田県	ダム	山瀬ダム施設見学会
6月中旬	青森県	砂防	青森県土砂災害防止講演会
7月2日	山形県	河川・海岸	県民河川・海岸愛護デー
7月上旬	福島県	ダム	木戸ダム打設完了式
7月上旬～中旬	青森県	ダム	森と湖に親しむつどい
7月中旬	青森県	河川	川に学ぶ体験指導者講習会
7月～10月	山形県	ダム	森と湖とダムのある写真コンクール（募集期間）
8月3～4日	宮城県	河川・砂防	第11回水シンポジウム2006inみやぎ
8月上旬	山形県	砂防	総合学習　ＳＡＢＯってなあに！
8月中旬	宮城県	河川	親子自然教室in広瀬川
9月3日	山形県	河川・ダム・砂防	かわとびあ2006やまがた（山形河川国道事務所への協力）
9月11日	山形県	河川・海岸	県民河川・海岸愛護デー
9月	福島県	海岸	関田海岸災害復旧助成事業竣工式
10月26日	岩手県	ダム	鷹生ダム竣工式
12月上旬	青森県	砂防	雪崩防災教室
12月	福島県	ダム	木戸ダム湛水式
3月下旬	福島県	ダム	こまちダム竣工式

整備局の動き

地域河川課のスタッフ　平成１８年４月１日【地域河川課】

佐藤地域河川課長（M3811）

- 高橋課長補佐（M3812）
  - 清水野係長（M3821）、渡邊（M3822）　総括、補助河川、海岸事業関係
  - 竹内係長(M3826)　河川基本方針等（２級水系）
- 櫻井建設専門官（M3815）
  - 竹内係長　補助ダム事業関係
  - 外山係長(M3827)　補助砂防事業関係

下線が新メンバーです。

平成１８年度　第１回　総合流域防災協議会の開催日程

	圏域（協議会）	直轄事務所	関係県等	H18 開催	開催場所	備考
青森県	岩木川	青森・浅瀬石川ダム・津軽ダム	青森	6月6日	青森市	
	高瀬川	高瀬川	青森	6月6日	青森市	
	青森・むつ		青森	6月6日	青森市	
岩手県	馬淵川	青森	青森	6月6日	青森市	
			岩手			
	三陸		岩手	6月9日	盛岡	
宮城県	北上川	岩手・北上川ダム統・胆沢ダム	岩手	6月12日	仙台市	※H17は盛岡市開催、H18は仙台市開催
		北上下流・鳴瀬総開・鳴子ダム	宮城			
	名取川	仙台・釜房ダム	宮城・仙台市	6月12日	仙台市	
福島県	阿武隈川	仙台・七ヶ宿ダム	宮城	5月31日	福島市	※H17は、仙台市開催、H18は福島市開催
		福島・摺上川ダム・三春ダム	福島			
	阿賀野川	（阿賀川・阿賀野川）	福島	5月31日	福島市	東北が事務局
	いわき・相双		福島	5月31日	福島市	
	久慈川	（常陸）	福島・茨城	7月4日	水戸市	関東が事務局
秋田県	米代川	能代・森吉山ダム	秋田	6月13日	秋田市	
	雄物川	湯沢・秋田・玉川ダム	秋田	6月13日	秋田市	
	子吉川	秋田・鳥海ダム	秋田	6月13日	秋田市	
山形県	最上川	山形・新庄・酒田・最上ダム統・長井ダム	山形	6月5日	山形市	
	赤川	酒田・新庄・月山ダム	山形	6月5日	山形市	
	荒川	（羽越・飯豊砂防・横川ダム）	山形・新潟	5月25日	新潟市	北陸が事務局

編集後記

暖冬続きの昨今、今年の冬は全国的に記録的な豪雪。しかし遅い春は、タイミングのよい桜前線の北上を呼び、GW東北各観光地では例年にない人手をもたらしたようです。一方、豪雪は雪崩被害、冬季の観光客の減少、雪どけ後も各施設・景観などに数多くの爪痕を残しましたが、これらを忘れかけていた雪に対する教訓として真摯に受け止め、今後の地域づくりに活かすときではないかと思います。

さて新年度、地域河川課も新メンバーも約半分が入れ替わりました。新メンバーも前任者同様よろしくお願い致します。投稿などは随時受付けていますので是非御一報ください。